

第2回新静岡県立中央図書館基本構想改定に係る有識者会議 会議録

日 時	令和8年6月19日（金） 13時から15時まで
場 所	県庁別館9階特別第一会議室
出席者 職・氏名	委 員 会長 朝比奈 一郎（青山社中株式会社筆頭代表 CEO、福井県立大学客員教授） 委員 野末 俊比古（青山学院大学教育人間科学部教授） 委員 林 左和子（静岡文化芸術大学文化政策学部教授） 委員 小久江 暁子（袋井市教育委員会生涯学習課長） 委員 川村 美智（静岡図書館友の会代表） 委員 岡本 真（アカデミック・リソース・ガイド株式会社代表取締役） 委員 岩田 勝（株式会社谷島屋静岡営業部部长） 委員 伊 夢瑛（静岡大学情報学部助教） 事務局 静岡県教育委員会教育長 前澤 綾子 静岡県教育委員会教育部長 山下 英作 静岡県スポーツ・文化観光部部長代理 川口 茂則 静岡県スポーツ・文化観光部参事（東静岡周辺整備担当） 小澤 和久 静岡県立中央図書館長 渡辺 賢一 静岡県教育委員会社会教育課新図書館企画室長 小須賀 拓也
議 題	新県立中央図書館基本構想の改定
配布資料	<資料> 資料1 第1回新県立中央図書館基本構想改定に係る有識者会議における主な意見 資料2 意見交換の論点(1)～(3) <別冊資料> ・新県立中央図書館基本構想 改定案のイメージ ・参考資料集（現構想、関連データ等）

1 内容

意見交換

- (1) 新図書館のコンセプト
- (2) 市町立図書館との連携・役割分担
- (3) 蔵書管理方針の見直し（資料収集（電子化・除籍）、分散保管 等）
- (4) その他

2 委員からの主な意見

（新図書館のコンセプト）

- ・東静岡という立地を踏まえ、学生や若者をターゲットとして、次世代のため、未来の

ために向き合う図書館として打ち出すと良い。

- ・県民の課題を発掘し、関係機関等と協力して解決するコーディネーション機能を打ち出すと、他県に無い新しい図書館像となる。
- ・賑わい創出については、県立図書館本来の役割や機能を基礎とした「知の探究、交流」が前提となるべき。

(市町立図書館との連携・役割分担)

- ・資料搬送頻度の拡大は重要であり、新図書館になる前から試行すると良い。
- ・人材育成の観点から、県立と市町立で人事交流できると良い。
- ・市町で保管しきれない地域資料等の保管やデジタル化の支援の検討が必要。

(蔵書管理方針の見直し)

- ・一般論としては一体保管が望ましいが、分散保管するのであれば、十分にコストを検証し、慎重に判断することが必要。
- ・資料の除籍は単なる利用頻度でなく学術的価値を考慮し、明確な基準の下に行うべき。

(その他)

- ・図書館は教育機関であり、直営での運営を望む。
- ・図書館の建物は、機能性が最優先である。
- ・東静岡の周辺施設との連携や、県内の企業、教育機関、金融機関等の知見を活用した価値創出が重要。

詳細は別紙「第2回新静岡県立中央図書館基本構想改定に係る有識者会議（詳細版）」のとおり。